

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-246720

(43) 公開日 平成4年(1992)9月2日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 3/14	3 4 0 C	8725-5B		
15/00	3 1 0 S	7323-5L		
15/72	K	9192-5L		

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-32139

(22) 出願日 平成3年(1991)1月31日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(71) 出願人 000232221

日本電気航空宇宙システム株式会社
神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目4番18号

(72) 発明者 都合 寛

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社社内

(72) 発明者 宮崎 信哉

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目4番18号 日本電気航空宇宙システム株式会社社内

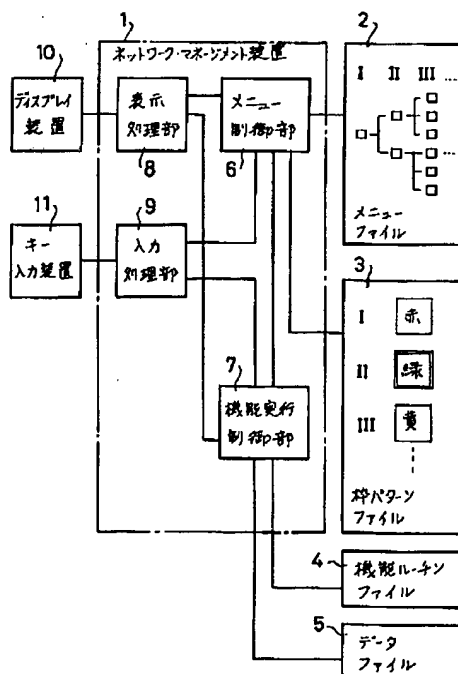
(74) 代理人 弁理士 鈴木 章夫

(54) 【発明の名称】 ウインドメニューのレベル表示方式

(57) 【要約】

【目的】 ウインドメニューの使用者が現在の階層レベルを容易に認識してシステムの操作性を改善するようにする。

【構成】 例えば、ネットワーク・マネージメント装置1のメニューファイル2と共に枠パターンファイル3を設け、この枠パターンファイル3にメニューの階層レベルに対応する枠の色パターンを格納しておく。そして、メニューと共に対応する色の枠を表示し、使用者はこの枠の色を見ることで現在の階層レベルを知ることができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ウィンドウによる階層構造を持つメニューを有するシステムにおいて、メニューを囲む枠についてメニューのレベルに対応した色の枠を保持する手段を備え、メニューを画面表示する際にそのメニューのレベルに応じた色の枠を選択し、これをメニューと共に表示することを特徴とするウィンドウメニューのレベル表示方式。

【請求項2】 メニュー制御部につながる枠パターンファイルを有し、この枠パターンファイル内にコマンド形式、或いは圧縮データ形式で各レベルを表す枠の色パターンを格納してなる請求項1のウィンドウメニューのレベル表示方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はネットワーク・マネジメントシステムなどにおけるメニュー方式に関し、特にウィンドウによる階層構造メニューにおいて、表示中のメニューのレベルを分かりやすく表示するための方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 最近のネットワーク・マネジメントシステムでは、使用者がシステムについて十分な知識を習得していなくとも容易に使いこなす事ができるように種々の工夫がこらされている。特にディスプレイ端末を用いて対話形式による処理が行われる場合には、一般にメニューやガイダンス画面を用いて、使用者が希望する処理や操作を容易に選択し、制御できるようにする方法が取られている。この場合、利用できるシステム機能（ルーチン）の数が多く複雑であるときにはグループ化と階層構造化を図り、これに対应的に階層化したウィンドウメニューを用いて選択するのが能率的である。図3は階層構造を持つウィンドウメニューの一構成例を示したものである。尚、I, II, III は階層構造メニューのレベルを表している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このような階層構造のウィンドウメニューを用いてシステムの制御を行う事により、使用者の負担は著しく軽減されるが、それでも使用者が階層構造の中での自分の位置、すなわち現在のレベルを見失い、目的のメニューを取り出す方向がわからなくなる事がある。その結果、操作を誤ったり、使いにくいシステムであるような悪い印象を使用者にもたせるという問題があった。本発明の目的はメニュー画面に基づいて簡単に現在の階層レベルを知る事ができるレベル表示方式を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明のレベル表示方式は、メニューを囲む枠についてメニューのレベルに対応した色の枠を保持する手段を備えており、メニューを画

2

面表示する際にそのメニューのレベルに応じた色の枠を選択し、これをメニューと共に表示する。例えば、メニュー制御部につながる枠パターンファイルを有し、この枠パターンファイル内にコマンド形式、或いは圧縮データ形式で各レベルを表す枠の色パターンを格納する。

【0005】

【作用】 本発明によれば、使用者はメニュー枠の色に基づいて各レベルを知る事ができるため、特定のレベル表示領域を探す必要がなく、容易にレベル認識が実現できる。

【0006】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。図1は本発明の一実施例であるネットワーク・マネジメントシステムの構成図である。図において、1はネットワーク・マネジメント装置、2はメニューファイル、3はメニュー枠パターンファイル、4は機能ルーチンファイル、5はデータファイルである。前記ネットワーク・マネジメント装置1は、メニュー制御部6と、機能実行制御部7と、表示機能部8と、入力処理部9とで構成される。又、10はディスプレイ装置、11はキー入力装置である。

【0007】 ここで、階層構造を持ったメニュー体系の各要素メニューは、夫々自己の属するレベル（I, II, III 等）を識別するコードを持ち、メニューファイル2に格納されている。夫々のメニューレベルを表す枠の色のパターンは、コマンド形式、あるいは圧縮データ形式でメニュー枠パターンファイル3に格納されている。この例では、レベルIは赤、レベルIIは緑、レベルIIIは黄色に設定している。又、メニュー上で選択される各機能のルーチンは、機能ルーチンファイル4に格納されている。更に、ネットワーク制御に使用されるパラメータやデータは、データファイル5に格納されている。

【0008】 このシステムによれば、システムの使用開始時に、メニュー制御部6は先ずメニューファイル2からレベルIのシステムメニューを取り出し、表示処理部8を介してディスプレイ装置10に画面表示させる。このときメニュー枠の色としては、レベルIに相当する色の枠をメニュー枠パターンファイル3から選択し、一緒に表示させる。図2は図3に例示したメニューに本発明を適用した場合を示す。使用者はキー入力装置11からカーソルキー、実行キー、終了キーなどを用いて指示を入力し、順次必要なメニュー画面を選択し、機能を選択し、その処理を実行させ、また他のメニューの画面を呼び出して異なる機能を選択し、処理を実行させるなどの装置を続ける。この場合、選択されるメニューのレベルは、下行、上行が繰り返される。しかし、どのメニュー画面においてもそのメニューレベルに応じた色の枠が表示されるために、視覚的に直ちに現メニューのレベルが判るので、これから、使用者が希望する次のメニュー画面を選択するためには下行すれば良いのか上行すれば良

3

いのかなどの手がかりを容易に得る事ができる。

【0009】尚、機能実行制御部7はメニュー画面上で選択された機能に対応するルーチンを機能ルーチンファイル4から選択し、必要に応じてデータファイル5のデータを用いて、指示された処理を実行させる。又、キー入力装置11から入力されたキー情報は、入力処理部9において解析され、コマンド、データ等の内容に応じてメニュー制御部6あるいは機能実行制御部7に通知される。

【0010】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、メニューのレベルに対応した色の枠を保持する手段を備え、メニューを画面表示する際にそのメニューのレベルに応じた色の枠を表示するので、使用者はメニュー画面の枠の色を視覚的にとらえる事により簡単に現在の階層レベルを知る事ができ、システムの操作性を著しく改善することができる。又、文字や数字を用いていないため、画面の堅苦しさを避けることができ、かつ他のデータ表示領域とも競合しなくなり、画面の有効利用を図ることができ

4

る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例システムの構成図である。

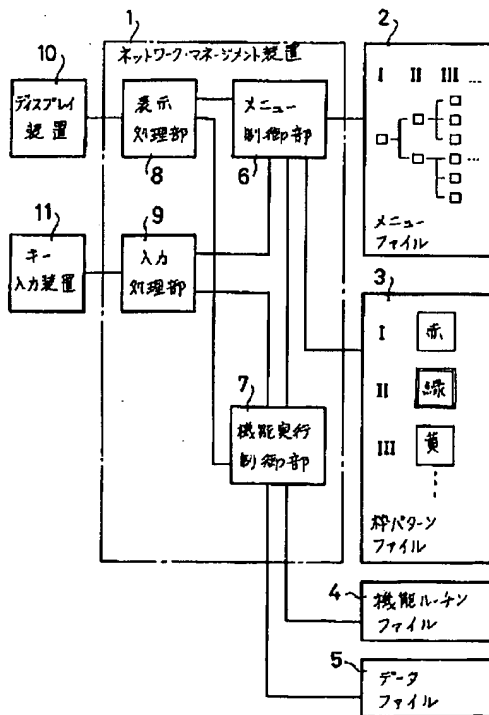
【図2】本発明のウインドウメニュー画面の説明図である。

【図3】一般的な階層構造ウインドウメニューの説明図である。

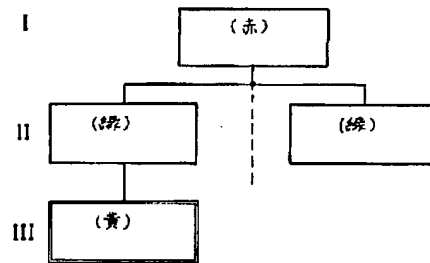
【符号の説明】

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 ネットワーク・マネージメント装置 | 2 メニューファイル |
| 3 メニュー枠パターンファイル | 4 機能ルーチンファイル |
| 5 データファイル | 6 メニュー制御部 |
| 7 機能実行制御部 | 8 表示処理部 |
| 9 入力処理部 | 10 ディスプレイ装置 |
| 11 キー入力装置 | |

【図1】



【図2】



【図3】

